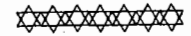
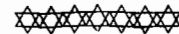


# 10・21〜22闘争勝利のために(その1)



新生動労千葉は自らの職場・生産点からの実力闘争をもって、三里塚「空港」へのジェット燃料列車を止める79秋年〜80春の闘いにいよいよ決起する。10・12第一回臨時委員会で確認された方針の意義を全体化し、10・21国際反戦闘争と結合し、労働運動の戦闘的再生の突破口を切拓く「反合・三里塚ジェット闘争」の圧倒的高揚をかちとろう。



## ◎各支部で着々と前進する闘争体制

いま、動労千葉各支部では、10・12第一回臨時委員会方針を全体化するための支部闘争委員会、職場集会、対話オルグ等が展開されている。10・22スト減産闘争への体制は着々と強化されているのだ。

この闘争体制作りの取り組みの中で、これまで闘ってきた三里塚ジェット闘争の原点を、いまだ度はっきりと確認しよう。

## ◎ジェット燃料輸送を阻止するの可否か

国家権力機動隊の暴力とブルドーザーで農民から農地を強奪し、農民の生活と生命をふみにじり、反人民的空港政策を強行する政府・公団にたいし、血と汗と泥にまみれ家族総ぐるみで死力を尽して闘いに決起している農民の一四年間の不屈の闘いに連帯するのかどうか。

成田空港を維持し機能させていくためのジェット燃料貨車輸送を率先して承認し、政府権力の尖兵として、農民の闘いに敵対するのかどうか。

ここに、三里塚ジェット闘争の原点がある。動労千葉一四〇〇は階級的労働組合の責務を自覚し「二つの戦略」と「四つの視点」を確立し、労働連帯の旗を高く掲げて、あの感動的な「百日間闘争」以来二年にわたって幾度も職場・生産点から実力闘争に決起し、「本部」反動暴力集団のあらゆる闘争圧殺策動と対決してこれまで闘いぬいてきたのだ。

## ◎いまこそ労働連帯の真価を発揮しよう

いま、政府・公団は、二期工事強行実施を策動し、反対同盟は9・16集会の大成功にみられるように、二期工事強行のためのベテンの「話し合い」路線を拒否し、敷地内農家を先頭に二期工事絶対阻止の闘いにたちあがっている。このとき、二期工事強行の一環としてあるジェット燃料増送計画に反対し、全国の労働人民が三里塚現地に総結集して闘われる10・21闘争と結合した10・22ストラ

イキは、労働連帯の真価をかけた闘いである。三里塚芝山農民がもっとも苦しいときにこそ労働連帯の真価が発揮されなければならない。

## ◎闘争の意義を正しく見据える 動労千葉一四〇〇名労働者

このような状況下にあつて、スト拠点・成田支部を中心に「今こそ」鉄道を武器に闘う動労千葉の真価を発揮すべきときだ」という決意は着々と打ち固められている。「本部」反動暴力分子の「三万人」の動員と数億円の組合費を投入した連日の組織破壊攻撃と対決し、勝利して、いよいよ職場からの実力闘争に決起し、動労千葉のこれまでの闘いの全てと、組織の未来をかけて「反合・三里塚ジェット闘争」に職場・生産点から決起するのだ。あらゆる反動と弾圧をのりこえることなしに、真の勝利はありえない。動労千葉一四〇〇名労働者は闘いの本質と情勢を正しく見据えている。「真にジェット燃料を止め、備蓄ゼロをかちとることは鉄道を武器にした動労千葉の闘いこそが真本だ」という自信と確信のもとに「10・22スト」でその第一歩を切り拓き、79秋から80代へ労働者の階級的責務をかけた闘いを貫徹しよう」という決意は、第一回臨時委員会の方針を全体化するなかで、一四〇〇名組合員総体のものとなりつつある。

## ◎「本部」反動暴力分子の敵対粉碎!

国鉄当局の尖兵になり下り、ジェット燃料用機関車の千葉への送りこみに率先して協力する「本部」反動暴力分子の敵対を粉碎し、拠点・成田支部の闘いを一四〇〇名全体で闘い抜く闘争体制をさらに万全に構築し勝利していこう。

☆

☆

☆

☆

☆

☆

# 職場・生産点からの実力闘争で ジェット増送阻止・備蓄ゼロをかちとろう!

労働連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう!